

第7回CHUBU懇話会に参加して

菊川 寛史

中部支部の一大イベントである「CHUBU懇話会」が、9月14日（金）に岐阜県本巣市で開催された。本会は、産学官交流や教育活動の活性化を目指しており、7年目を数える今回は、「化粧品原料開発のパイオニア」である一丸ファルコス株式会社の本社セミナー室で開催された。

当日、JR岐阜からバスで岐阜大学を經由し、約50分で清流根尾川と岐阜の特産である富有柿の畑に囲まれた、のどかな土地に位置する一丸ファルコス本社に到着した。到着まもなく、CHUBU懇話会としては初の試みとして企業にお弁当を提供いただき、ランチタイムセミナーとしてArunasiri Iddamalgoda氏に同社の紹介と研究・商品紹介をしていただいた。

講演会では、以下の4名の先生にご講演いただいた。

- ・桐谷太郎氏（株式会社エクサウィザーズ）
「Graph convolutional networkを用いた低分子化合物のプロファイル予測・要因分析・化合物提案」
- ・山内恒生氏（岐阜大学応用生物科学部）
「フラボノイドの美容と健康に与える影響」
- ・兒島孝明氏、中野秀雄氏（名古屋大学生命農学研究科）
「バイオインフォマティクスに憧れて—高速DNAシーケンシングを駆使した転写制御機構の解析—」
- ・今野宏氏（株式会社秋田今野商店）
「麴その古くて新しいもの（清酒用種麴開発の一例）」

講師の先生ごとに趣向を凝らしたご発表をしていただ

き、感嘆の声が上がることも、どっと笑いが起こる一幕もあったので、4題と長い時間にもかかわらず、講演にのめり込み、アツという間に時間が過ぎた。質疑応答でもさまざまな参加者から手が上がり、活発な議論が交わされた。

その後、同社の研究所・工場・ストックヤードなどを見学した。同社は化粧品・医薬品原料の抽出生産だけでなく、その成分の機能性評価も自社でしっかりと解析を行っていた。肌のシミ・シワ・水分量などを解析する実験室では、「隠れシミ」の解析画像に参加者一同、驚きの声を漏らしていた。

一丸ファルコスの皆様に笑顔でお別れをした後、一部参加者は岐阜駅の懇親会場へとバス移動した。参加者は30人にのぼり、視覚にも味覚にも美味しい料理とお酒を笑味しながらアツい議論を続ける方もあれば、産官学の多様な大人たちに積極的に話しにいく学生さんも見られ、大盛況のうちに会は幕を閉じた。

今回のCHUBU懇話会には、51名もの多くの方々にご参加いただきました。お忙しいところ、岐阜県まで遠路はるばるご参加いただきました皆様、また、貴重な機会とお弁当・会場をご提供いただきました一丸ファルコス株式会社の関係者の皆様には、この場をお借りしまして改めて御礼申し上げます。



質疑応答のワンシーン



集合写真